

県教育委員会では、夏季休業中に、小・中学校英語における指導と評価に係る研修を実施しました。両校種ともにオンラインで開催し、講義・協議を行いました。今回は、研修の中から、それぞれの校種における指導と評価のポイントについて紹介します。

1

小学校英語—指導と評価に係る研修1（講義・協議）—

講師：鈴鹿大学教授 高橋 美由紀 先生（7月29日実施）

【1. 言語活動について】

言語活動は、外国語を用いて、お互いの思いや考えを伝え合う活動です。小学校外国語活動・外国語科においても、互いの気持ちをその場でやり取りする力が求められています。発音練習や歌・何度も同じセンテンスを機械的に書くことは言語活動ではありません（『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』にも明記されています）。児童が自分の伝えたいことを表現するために、指導者は言語材料を十分に用意し、表現の選択肢を多く設けることが必要です。本研修では、6年生を想定し、夏休みの思い出や誕生日について、歌やチャンツに乗せて表現の定着を図ったあとで、主体的に自分の気持ちを伝える演習を行いました。



講師：高橋美由紀

【2. <聞くこと>の評価について】

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』をもとに、これまでのリスニングテストのように、ただ単に聞いて線を引いたり選択肢に丸をつけたりする活動を行うのではなく、教師の見取りの中から子どもたちができることをとらえ、評価に使っていくことが大切だというお話がありました。例えば、教師が Small Talk で話した自身の誕生日についての内容を児童が聞き取り、児童はその内容を表す絵を順に指したり、教師の誕生日に関する具体的な情報を聞き取ったりする活動等から評価を行うことができます。また、積極的にその活動を行っているかというところから主体的に学習に取り組む態度も評価を行うことができます。

4-3 本単元における「聞くこと」における評価の総括

評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	第4時 指導者の話を 聞く活動	(第5時) LW&T5	第5時 LW&T5	第5時 LW&T5	第5時 LW&T5	本 単 元 に お け る 評 価	
評価 方法	行動観察・ワーク シート記述分析	行動観察・テキ スト記述分析	行動観察・ テキスト記述分析	本 単 元 に お け る 評 価	行動観察・ テキスト記述分析	本 単 元 に お け る 評 価	
評価 規 準	指導者の誕生日や 好きなもの、欲し いものを聞き取っ ている。	相手の誕生日や 好きなもの、欲 しいものを聞き 取っている。	相手のことをよく 知るために、誕生日 などについて短い 話を聞いて、具体的 な情報を聞き取っ ている。	本 単 元 に お け る 評 価	相手のことをよく 知るために、誕生日 などについて短い 話を聞いて、具 体的な情報を聞き 取るようとしている。	本 単 元 に お け る 評 価	
児童1	b	-	B	c	C	c	C
児童2	c	(b)	B	b	B	b	B
児童3	b	-	B	a	A	a	A

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』(p.53)

【3. 主体的に学習に取り組む態度の評価】

学習指導要領にある目標「学びに向かう力、人間性等」については、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じで見取ることができる部分と、②観点別学習状況の評価や評定になじまない部分（感性、思いやり等）があります。①については、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価します。

【1. 学習評価の改善の基本的な方向性について】

学習評価について、①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと②教師の指導改善につながるものにしていくこと③これまで慣行として行なわれてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと、と説明がありました。そして、③について、参加者で協議を行いました。定期テスト前のワークの提出の必要性について意見があり、ただ提出させるだけでは3観点のどこにも評価する観点がないことや、ワークで学んだ内容が身に付いているかを確認することが必要であると解説がありました。

評価の方法が変わったので、今までの方法から切り替えていく必要があることを確認しました。

【2. 教科書本文を使った指導における評価】

思考・判断・表現<話すこと（発表）>の指導と評価例について模擬授業を行い、講師が参加者に本文の内容にかかわる様々な質問を投げかけ、内容理解を深めました。そのうえで、生徒の意見を引き出すパフォーマンステストの評価をどのように行うか、協議しました。

例) 単元：Unit4 Be Prepared and Work Together (NEW HORIZON English Course 3)

パフォーマンス課題：What can we do to help foreigners in our neighborhood?
について発表する

<評価> 地域の一員として防災の意識を持つために、外国人支援の取組について、簡単な語句や文を用いて話している。<話すこと（発表）>

- ◎・・・具体的な方法を例や理由とともに述べている
- ・・・具体的な方法を述べている⇒評価
- △・・・方法を述べている
- ×・・・方法を述べていない

3観点評価についての
詳しい解説は、
「ネット DE 研修」で
見ることができます。

<https://websv.mpec.jp/>

【3. タブレットを活用した評価】

1人1台端末の環境が整ってきているので、スピーチや音読のテストでタブレットを有効に活用することができます。これまで、パフォーマンステストは1回きりだったので、緊張して生徒の力が発揮できない場合があったのではないのでしょうか。例えばICTを活用して、20分間パフォーマンステストの時間をとり、ペアでお互い何度でも録画し合い、ベストなものを提出させるという方法があります。この方法にすると、撮ったら見直して、何度も改善し撮り直すことができるので、生徒は主体的に取り組み、自らのパフォーマンスを向上させることができます。教師はこの過程も評価できます。このように、練習の過程で力がつくようなパフォーマンステストを設定してみましょう。



【お知らせ】

上記①、②の研修内容を踏まえ、「小学校英語—指導と評価に係る研修2（実践）—」（1月14日（金））と「中学校英語—指導と評価に係る研修2（実践）—」（令和4年1月20日（木））を開催します。参加者がパフォーマンステストに係る取組を持ち寄り、実践報告を行い、その内容や評価方法について研修します。講師は、引き続き、小学校対象が高橋先生、中学校対象が阿野先生です。県総合教育センターHP(<http://www.mpec.jp/>)からお申し込みください。先生方の参加をお待ちしています。